**14 『宇治拾遺物語』**

これも今は昔、の道づらに、河原といふ所にてくらべといふ、集まる所あり。その辺のありけるを一体造りりたりけるを、①もせでにうち入れて、奥の部屋などおぼしき所にをさめ置きて、の営みにまぎれて、ほどにければ、忘れにけるほどに、三、四年ばかりⓐ過ぐにけり。

ある夜、夢に、をⓑ過ぐ者の、声高に人呼ぶ声のしければ、「何事ぞ。」と聞けば、「地蔵こそ、地蔵こそ。」と、高く、この家の前にていふなれば、奥のより、「何事ぞ。」といらふる声すなり。「あすの蔵しふにはらせ給はぬか。」といへば、こののうちより、「参らむと思へど、まだ目のあかねば、②え参るまじく。」といへば、「かまへて、参り給へ。」といへば、「目も見えねば、③いかでか参らむ。」といふ声すなり。

　(ア)うちおどろきて、「なにのかくは夢に見えつるにか。」と思ひ参らすに、(イ)あやしくて、夜明けて、奥の方をよくよく見れば、この地蔵をさめて置き奉りたりけるを思ひだして、見出だしたりけり。「これが見え給ふにこそ。」と、おどろき思ひて、急ぎ開眼し奉りけりとなむ。

語　注

袖くらべ＝商人などが袖と袖とを合わせ価格を決めること。またその取り引きが行われる場所。

下種＝身分の低い者。

地蔵菩薩＝仏の出現まで衆生を救う仏。

開眼＝新たにできた仏像などにを描き入れ、魂を入れること。開眼供養。

櫃＝大型の木箱。

世の営み＝世渡りの仕事。

天帝釈＝仏法を守る神。

地蔵会＝地蔵菩薩を供養する法会。

問1　二重傍線部ⓐ・ⓑ「過ぐ」を、本文に合った活用形に活用させよ。  
（3点×2）

ⓐ〔　　　〕　ⓑ〔　　　〕

問2　□内の格助詞「の」と同じ働きのものを、次から一つ選べ。（6点）

ア　草の花はなでしこ。唐のはさらなり。

イ　これを常語の外に求むるは、

ウ　見し人の松の千年にみましかば、

エ　髪のいとうつくしげにてかかりてゐたるを、

オ　いと清げなる僧の、黄なる地の着たるが来て、

〔　　〕

問3　波線部(ア)・(イ)の語句の本文中での意味を答えよ。（4点×2）

(ア)〔　　　　　　　　　　〕　(イ) 〔　　　　　　　　　　〕

問4　傍線部①・②の口語訳として最も適当なものを、それぞれ次から選べ。（6点×2）

①「開眼もせで」

　ア　開眼をしようとして

　イ　開眼を済ませて

　ウ　開眼させて

　エ　開眼を頼み

　オ　開眼もしないで

〔　　〕

②「え参るまじく」

　ア　参ることはできない

　イ　参りたいと思っている

　ウ　すでに参ってきた

　エ　参ることができる

　オ　参るのを遠慮している

〔　　〕

問5　傍線部③はだれのことばか。本文中から抜き出せ。（8点）

〔　　　　　　　　　　〕

問6　本文の主題として最も適当なものを次から選べ。（10点）

ア　下種の物忘れ

イ　地蔵会の尊さ

ウ　仏のお姿のありがたさ

エ　地蔵菩薩が会話するユーモア

オ　人々の生活の様子

〔　　〕

練習問題〈用言〉

次の傍線部の語の活用の種類を、それぞれ後から選べ。

①　春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは。 （　　　　）

②　紫だちたる雲の細くたなびきたる。 （　　　　）

③　二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。 （　　　　）

④　などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、 （　　　　）

⑤　虫のなど、はた言ふべきにあらず。 （　　　　）

⑥　炭持て渡るもいとつきづきし。 （　　　　）

⑦　車きよげにしたてて見に行く。 （　　　　）

⑧　一人二人すべり出でてぬ。 （　　　　）

ア　四段活用　　イ　上一段活用

ウ　上二段活用　エ　下一段活用

オ　下二段活用　カ　カ行変格活用

キ　サ行変格活用

ク　ナ行変格活用

ケ　ラ行変格活用

コ　ク活用　　　サ　シク活用

シ　ナリ活用

【解答】

問1　ⓐ過ぎ　ⓑ過ぐる

問2　エ

問3　(ア)はっと目が覚めて　(イ)不思議に思って

問4　①オ　②ア

問5　地蔵菩薩（地蔵も可）

問6　エ

【練習問題解答+口語訳】

①コ《春は夜明け（がよい）。だんだんと白くなってゆく山際。》

②ア《紫がかった雲が細くたなびいている。》

③シ《二、三羽など急いで飛んでいく様子までも趣がある。》

④オ《雁などが列をつくっているのが、たいへん小さく見えるのは、》

⑤ケ《虫の声など（聞こえてくるのも）、また言うこともできない。》

⑥サ《炭をもって行くのもたいへん（冬の朝に）似つかわしい。》

⑦イ《牛車を美しく飾り立てて見に行く。》

⑧ク《一人二人こっそりと出て帰る。》